

駕籠に乗る人 担ぐ人 そのまた草鞋を作る人

その1



フィリピンの首都マニラ 国営鉄道線路沿いの風景

線路脇の営み

鉄道を利用して多くの人々が
経済発展の担い手として朝夕に行き交う

その人々の“食”を補うかのように
線路際に粗末な露天が並ぶ
そこには活気があった

駕籠に乗る人 担ぐ人 そのまた草鞋を作る人
その2



線路を使って“トロッコビジネス”
ポリタン一杯で5ペソの配達料
子どもでも家族の役割を担っているんだ

人の営みには最低限の衣・食・住が欠かせない
でも、最低限の基準は見えない
1日2ドル以下の収入で生活する人を
貧困層と呼ぶそうなの
この国の8割が貧困層だといわれる
ポリタン20杯分で貧困から脱するぞ
ガンバレ少年

駕籠に乗る人 担ぐ人 そのまた草鞋を作る人

その3



線路沿いで出会った笑顔に救われた
ここに住まう人々の“喜怒哀楽”に想いを馳せてみる

人はどこから来て、どこへ行くのか
男と女が出逢って家族ができた
そしてここに営みの場所がある
“開発”の一言でこの営みが消えつつある
帰る故郷があればいいけど・・・！
笑顔の少女の故郷は線路沿い？

ガンバレ少女

駕籠に乗る人 担ぐ人 そのまた草鞋を作る人

その4



“遊び場” 日没前のひと時を仲良しと遊ぶ風景はどこも同じ

4本の硬くて長い長い鉄の線路と
枕木と石ころだらけの
細長~い広場がみんなの遊び場だよ
でもねビク-タン駅の近くに住む僕達には
もっといい場所があるよ
ここなら裸足でも痛くないし
暑い日差しや雨にも濡れないよ
だってすっごい立派な屋根がついてるんだから

駕籠に乗る人 担ぐ人 そのまた草鞋を作る人
その5



カンカンカン そこまで列車が来ていても“みんなで渡れば・・・”
少なくとも1年前までは手折れかけた竹製の遮断機があった
これでもか と叫び続ける列車の警笛が朝の風物詩だ

線路沿いの生活を横目に
駕籠を担ぐ人たちの波が職場へ向かう
彼らの生活が時にはうらやましかったりもする
それでも路上生活者に比べればまだまだ
「上見て暮らすな 下見て暮らせ」
秀吉の時代（士農工商）が今も続くマニラ
でも未だに
駕籠に乗る人にお目にかかったことがない